

らい  
来ぶらり2010 春  
No.85

イラスト：大学図書館利用案内表紙

館長  
コラム

## 私公混同

図書館長 高埜利彦(文学部教授) 4月1日から大学図書館長に就任

このタイトルは「公私混同」の誤植ではない。公的なものを私的に用いてはばからないことに会おうと、人はこれを「公私混同」の行為であると言って批判する。その逆に、本来は私的であるものを、公的に用いる場合を表現する言葉は無いので、これを「私公混同」とでも表現することにする。この言葉が存在してこなかったように、このような行為はめったに見られないものであったのであろう。

日本史の研究者である私は、江戸時代を専門にしていることから古代史のことはよく知らな

い。そんな時に用いるのが『国史大辞典』である。奈良時代の770年代に、石上宅嗣(いそのかみやかつぐ)という貴族は、学問をよくする人で多数の書籍を集めていた。みづから詩歌や著述を残したのであるが、彼の名前を今日まで伝えたのは、「芸亭」(うんてい)と名付けられた書庫の私蔵の書籍を公開し、希望者に自由に閲覧させたことからである。私有物である蔵書を、公共のために開放したというもので、これこそ「私公混同」と呼ぶ事例である。「芸亭」は日本で最初の図書館と言われている。

# セリフに感動!この本が好き!

忘れられない名台詞、あなたにもありませんか? 今回の来ぶらりでは、皆さんのお気に入りの台詞やシーンを教えていただきました。これを参考に興味のある本を手にとってみてはいかがでしょうか。

学院高等科野球部監督  
瀧澤拓也

『荒ぶる復活』  
清宮克幸著 講談社 2002



「二割の反対者は大歓迎」

早大ラグビー部を劇的に復活させた清宮前監督の言葉です。私が学院高等科野球部監督へ就任した当初、学院の伝統や風習に直面した際、この言葉を心の支えにしてきました。新しいことをやろうとすると必ず反対はあるものですが、指導者としてその決断に自信を持ち、情熱を持って選手を指導すれば、おのずと周囲からの理解は得られるものです。信念を貫きチームを改革していく強い姿勢に共感いたしました。



『イーリアス』  
ホメロス著 土井晩翠訳 富山房 1995  
(女大図・開架 991 / 30)

「ああ我これを能くし得ば  
汝に讐(あだ)を報ひんを」

言っているのはアキレウス。言われているのはアポロン。騙されて戦場から離されたアキレウスは神であるアポロンにこのような暴言を吐く。傲慢(ヒュプリス)の戒めが軸にあるギリシア神話ではこれで無事であるのは極めて異例。『イーリアス』のお話の後で、死ぬことは死ぬんですけどね。逆らってはいけぬ相手に、でもなんとかしてやりたいってことありますよね!? 私はすごくあります。

文学部哲学科准教授  
小島和男

文学部英語英米文化学科教授  
中野春夫

『The tragedy of King Richard III』  
William Shakespeare ; edited by  
John Jowett  
Oxford University Press 2000  
(大学図・開架 082 / Ox2o1 / 148)



めちやくちャコミカルで、とんでもなく不気味な神話的殺人鬼リチャードがお芝居のしょぼぼに放つ一言が  
"I am determined to prove a villain"  
です。この時代、"determined"は「～するよう決心する」と「～するよう運命づけられている」という二通りで解釈できたところがミソです。「ワルになってやる」能動的なリチャードと「ワルに仕立て上げられてしまう」受動的なリチャードの二つの像が絶妙に埋め込まれているところにご注目ください。



『父小泉信三を語る』  
小泉妙著 慶應義塾大学出版会 2008  
(法経図・開架 289.1 / Ko38 / K)

その日は母と帝劇に出かけたのですが、夕立になり、私達は傘なしで、「どうしましょう」と言いながら出て来ると父が傘を持って立っていたので、びっくりしてしまいました。「どうして」と母が言うと、「君が今日は良い着物を着て行ったから。迎えにきた」と。母がその日に着ていたのは、父の好きな藍色の着物でした。

こんなことがスマートにできる男性になりたいと、願っているのですが、なかなか…。

大学学生センター教務課  
大歳健

理学部物理学科准教授  
井田大輔

『赤毛のアン』  
モンゴメリ著 村岡花子訳 新潮社 1987  
(大学図・開架 Shincho / M4 / 1)  
※表紙の写真は新潮社 2008 女大図・開架 SHINCHO / M4/41



「世界って、とてもおもしろいところですよ。もし何もかも知っていることばかりだったら、半分もおもしろくないわ。そうでしょう? そうしたら、ちっとも想像の余地がないんですものねえ。」

想像力でまわりの人まで喜ばせるのは、アンの得意技です。アンのように考えられたい、きっと世界はもっと楽しいでしょう。それから、「知らないことがあるからこそおもしろい」というこのアンの言葉は、たびたび思い出し、共感をおぼえます。

大学院日本語日本文学専攻  
赤井紀美



『金色夜叉』  
尾崎紅葉著 岩波書店 2003  
(大学図・開架 (上) 081.2 / 33Cア / 681, (下) 081.2 / 33Cア / 682 ほか)

「いいか、宮さん、一月の十七日だ。  
来年の今月今夜になつたらば、僕の  
涙で必ず月は曇らして見せるから」

熱海の海岸にある銅像を御存知だろうか。いまでは知る人も少なくなったが、明治時代に大流行した小説『金色夜叉』の一場面である。主人公間寛一は、自分を裏切り金満家へと嫁いでゆく恋人・鳴沢宮を熱海の海岸で蹴飛ばし、姿を消す。明治の青年の、激しい想いがここにある。甘いまかりの純愛小説に飽き足らなくなった人に読んでほしい一冊。

文学部フランス語圏  
文化学科教授 中条省平

『春の雪』  
三島由紀夫著 新潮社 1969  
(大学図・書庫 913.7 / 187 / 1)



三島由紀夫の『春の雪』は1969年に刊行された。学生の反乱が世界的に広がった時代に、この古典的な恋愛小説は時代遅れに見えた。だが、その装いの下にこんな台詞があったことを私は忘れられない。

「優雅といふものは禁を犯すものだ、それも至高の禁を」

フランス哲学を多少かじった中学生には、この台詞がジョルジュ・バタイユからの頂きであることが分かった。だが、その底に、作者の戦慄すべき決意が隠れていたことを知ったのは、その翌年のことである。

大学学生センター教務課  
酒寄有紀子

『博士の愛した数式』  
小川洋子著 新潮社 2003  
(大学図・開架 913.7 / 1328)



博士が自分の胸に手を当て言った言葉。  
「真実の直線はどこにあるか。それはここにしかない。」  
「永遠の真実は、目に見えないのだ。」  
日常の中で、目に見える限られたものは多い。しかし、愛だったり人を思いやる気持ちだったり、目に見えない優しいものか、人の心の中には確かに存在していると思う。そう考えると、「生きている」ということに対して、温かい気持ちを持つ。



『九十三年』  
ヴィクトル・ユゴー著 辻昶訳  
潮出版社 2000  
(大学図・書庫 950.8 / 66 / 6)

『レ・ミゼラブル』の作者として有名な19世紀フランスの作家ヴィクトル・ユゴーによる、1793年のヴェンデの乱を題材にした『九十三年』(1974)において、物語のカギとなっているのは、様々な革命観と、「人間の良心」という普遍的なテーマである。

「革命は和合であって、恐怖ではないのです。」  
「私は精神の共和国を建設したいのです。」

登場人物の一人ゴーヴァンを通して語られるこのセリフは、ユゴー自身の革命観にほかならない。

大学院史学専攻  
館野直子



『空のかあさま』  
金子みすゞ JULA 出版局 1984  
(女大図・開架 911.58 / 5 / 2)  
※表紙の写真はJULA出版局2004刊

「草があをを茂つたら、  
土はかくれてしまふのに。」

そうすることで自分がどうなるかなど考えることなく、誰かのことを懸命に育もうとする気持ちを、いつしみと呼ぶのだろうか。やがて生い茂る草で自分の姿が隠れ見えなくなったとしても、土は草を育み続ける。私たちの土は誰であり、また私たちは誰の土になるのだろうか。身近な光景から命の連関を読みとる詩人、金子みすゞの世界に触れられる一冊。

女子大学図書館  
遠藤泉



『野中広務：差別と権力』  
魚住昭著 講談社 2004  
(大学図・開架 289.1 / 1709 ほか)

「私はもう生々しく生き残ろう  
とは思いません。静かに消え  
去っていきこうと思っております」

政治家・野中広務の半生を描いたノンフィクションです。50代半ばまでの中央政界入りながら一時は首相の座まで目前にした彼の人生は、差別との戦いでもありました。政界引退発表後のこの一言は、達成感とは無縁の寂寥感を感じます。政治の本というより、差別に屈せず真正面から人生に立ち向かった一人の人間を描いた読み物として心に残ります。

大学図書館  
吉崎彩子



『カラフル』  
森絵都著 文藝春秋 2007  
(大学図・開架 Bunshun / も 20 / 1)

「ときには目のくらむほどカラフルなあ  
の世界。あの極彩色の渦にもどろう。  
あそこでみんなと一しょに色まみれ  
になって生きていこう。たとえそれが  
なんのためだかわからなくても一。」

一度死んだはずの主人公が他人の体にホームステイ(!)する話です。このシーンは主人公がある決意を固める場面。『カラフルなあの世界』とは何のことなのか…強い思いが心にぐぐぐと突き刺さり胸を打たれます。

法経図書センター  
内藤沙織



Home Page

## 大学図書館 HP デザイン変更

ホームページのデザインを使いやすく、探しやすく、新しく変えました。

Information

利用頻度の高い検索機能、  
カレンダーを画面左に配置し、  
より容易に探せます

携帯版ページでカレンダーや  
情報を手軽に確認

TOP ページ中央に、各案内  
内容を記載し一覧性を向上!!

セミナー情報やライブラリ  
等の図書館広報を紹介!!

大学図書館ホームページは、  
今後も様々な改善を予定してい  
ます。ぜひ活用して学習・研究  
に役立てよう!

IN OUT  
Gate

## 新・入退館 ゲート登場!!

大学図書館の入館ゲートを自動で開くタイプに入れ替えました。今までは手動でしたが、4月からは学生証をかざすだけでゲートが開きます。あわせて、退館ゲートも新しく入替えを行い、今度からは退館時にも学生証をかざす必要があります。駅の改札と同じですね。みなさん、退館時にはご注意ください!



Printer

## プリンタ、 ついに設置!

大学図書館3階コンピュータ閲覧室に、プリンタを設置しました。これで、印刷のために計算機センターに行かなくても、図書館でレポート等の印刷ができるようになります。印刷の使用に関しては、大学計算機センターの利用の手引きに沿ってご利用下さい。

来ぶらり No.85 2010年4月1日発行

発行責任者: 高荻利彦 編集委員: 米田岳史・山本有里  
学習院大学図書館

1階貸出・返却カウンター ☎ 03-5992-1009 (直通) 内線 2397 2階レファレンスカウンター ☎ 03-5992-9249 (直通) 内線 2396

☎ 03-3986-0221 (代表)

〒 171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

「来ぶらり」のバックナンバーは  
(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/library/raiburari.html>) で公開しています。